

10月定例教育委員会会議録【概要版】

開催年月日	令和5年10月25日(水)	場 所	延岡市立熊野江小学校 図書室
開催時間	14時30分 から 16時05分まで		
出席者	教育長	澤野 幸司	
	教育委員	宮田 靖、久世由美子、甲斐千尋、(※遠田真央委員欠席)	
	参 与	丸山真二、志道里香、竹光俊司、瀬之口博行、工藤靖治、下野隆平	

◎ 議 事

◆議案第16号 令和5年度延岡市アウトリーチ懇談会委員の委嘱について

(学校教育課)

- 学校教育課長より、不登校や非行等の問題について研究・協議を行い教育委員会に対する提言・助言等を行う「延岡市アウトリーチ懇談会」の委員の委嘱について説明がなされ、下記の質疑の後に、異議なく承認された。

◎) アウトリーチ懇談会について、去年はどんなテーマでこの委員で協議したのか、またどんな成果や結果が出たのか伺いたい。

⇒) 昨年度の懇談会は10月と1月の2回行った。1回目の会では「本県及び本市の不登校児童生徒の現状」について説明を行った後、「不登校及び不登校傾向にある児童生徒への効果的な対応のあり方」について、それぞれ専門的な立場から意見等をいただいたところである。この中で、「今の不登校対策でいいのか、新たな不登校対策を打つ必要があるのではないか。」など、様々な意見等をいただいたところである。2回目の会では、「子供たちの自立を目指して」と「不登校児童生徒への理解と支援のあり方」について、それぞれ意見等をいただいたところである。この懇談会での意見等を踏まえるとともに、熊本市のオンライン学習支援も参考に検討を行い、延岡市におけるオンライン学習支援の導入にも繋がったものと考えている。

◆議案第17号 令和5年度延岡市社会教育功労被表彰者の決定について

(社会教育課)

- 社会教育課長より、令和5年度延岡市社会教育功労表彰の候補者について説明がなされ、異議なく承認された。

◆議案第18号 カルチャープラザのべおか条例施行規則の一部を改正する規則の制定について（図書館）

- 図書館長より、電子図書館導入に伴う規則の改正について説明が行われ、下記の質疑の後に、異議なく承認された。

◎) 電子図書なので、スマホやタブレットなどで読むことになると思うが、貸し出しや返却は、電子上なので、借りたらそのコンテンツを見ることができて、2週間経ったら自動的に今度は見られなくなる。だから、具体的な返却はないと理解してよいか。

⇒) お見込みのとおり。自動的に貸し出しを受けて、2週間経ったら自動的に見られなくなる。返却期限前にも返却できる。

◎) 借りることに限っては、図書館に行かないといけないのか。

⇒) 電子図書館なので、自宅等でネット環境があれば、図書館で発行するIDとパスワードがあれば、自宅でもどこでも24時間借りることができる。

◎) だからこそ延岡市民もしくは延岡に在勤している人に限定しないと、世界中どこからでもアクセスして、延岡市のお金でやっているのに、他の人たちが恩恵を受けてしまうということになりかねないということで、今回その規則の改正があるという理解でよいか。

⇒) 今回、提供会社は図書館流通センターという会社であるが、その他の提供会社においても、同じようにそういった形で使える人は制限するという規定を設けている。

◎) どんな電子図書のコンテンツを準備しようとしているのか伺いたい。

⇒) 11月3日には、電子書籍が1028冊、その他にも電子雑誌が約180タイトル見られるような形になっている。今回は主に図書館に来ることが難しいビジネスマンや子育て・介護等で忙しい母親など、そういった人たちをターゲットとして選書を行っているところである。

◎ 協議事項について

◆不登校生徒向けのオンライン学習及び協調学習の視察を終えて

- 定例教育委員会開催前に行った視察についての協議を行った。

- ◎) 先ほどせっかく見ていただいたので、指導員の先生や、後程、校長先生と担任の先生にも来ていただいて、子供たちの様子などについてもいろいろ質問等をしていただきながら意見交換をしたいと思う。まずは、オンライン学習支援について、見られた感想など、各委員から支援員のお二人へ一言ずつ話をしていただけるとありがたい。
- ◎) ああいうやり方で、不登校で行かなかった子供たちがオンラインでできるっていうのはすごくいいことだなあとと思うし、ああいうものをいろんな面で使っていただけるとすごく嬉しいなと思っている。いろんな面でオンラインが使えると思う。だから、いろんなことを考えていただいて、もっともっと子供たちを自分たちの方に引込んでいただけると嬉しいなと思っている。
- ◎) 見て思ったことは、先ほど報告のあった不登校 130 名の中で参加しているのが 8 名、5%、これが 10% を超え、3 割、4 割と増えていくようになるといい。このネットワークを知らない人がまだいると思う。それからやっぱり機器の使い方、そういうのが分からないところもあるかもしれない。そういう技術的なものについて指導を徹底してもらおうと、もっと増えるんじゃないかなと思って期待している。
- ◎) 9 月からのスタートっていうことで、なかなか先が見えにくい状態でスタートされたのかなあという感じはあるが、10 名前後の子供たちが参加できているということに対しては、私は大変このスタートとしては良いスタートというか、こういった機会を得て、子供たちが参加できる機会を提供されているという部分については、10 名が多いか少ないかっていうのは別にして、それだけの子供たちが参加できているっていうことに対して良い機会を提供したんじゃないかなあと思っている。教材等の準備等も、忙しい中で先生も 2 人というような部分で、なかなか大変だと思うが、年度末に向けてはやはり評価等を自分たちでされていく中で、果たしてこの人数、2 人でどうなのかっていうような部分もまた考えていかないといけないのかなあっていうのを 2 人の意見を聞きながら感じたところであった。
- ◎) 準備期間 4 月から 9 月までの準備期間と、実際に稼働を始めてからの 9 月から今までと、いろいろ苦勞があったかと思う。先ほど委員が言われたように、もう生まれれば非常にやっぱりやってよかったっていうことだが、実際携わっている 2 人のアドバイザー、また

学校教育課の担当者など、いろいろな人がこれに関わっているが、大変だったなということがあったら伺いたい。

- ⇒) 一番苦しんだのは機械の扱い。教育内容より機械の扱い。専門の人が定期的に回ってきてくれると非常にありがたいと思った。
- ⇒) 今言われた部分もあるが、それよりもこのオンラインの目的・ねらいに子供たちの居場所づくりってというのが一番あったので、その居場所づくりをどういった形で、私たち2人しかいなかったが、学校教育課にもいろいろと指導いただきながら、熊本にも行かせていただいたり、手探りでスタートしたが、やっぱりどういうふうにして居場所づくりをしていけばいいのか。それから日々私達がよく言っているのが、本当にこの視聴コンテンツ、教材が子供たちにとってプラスになっていたり、最終的なこの目的っていうか、将来の社会的自立のための一歩にどうやったらなるのかなっていう、その辺りを日々悩んでいるところである。
- ⇒) 2人の支援員には、4月から、例えば学校に行っていたき、端末を活用した授業を視察してもらうなど、オンライン学習の導入に向け大変尽力していただき、計画どおり9月からの導入ができたという状況である。配信の初日、最初の生徒がオンライン上に入室してきた時の様子などが報道されたこともあり、他市町村等からオンライン学習支援に関する問い合わせもある状況である。今年度、中学生を対象にスタートさせたが、来年度は小学生向けにもスタートさせたいと考えているが、例えば、支援員の人数やカリキュラムの編成など、様々な課題等もある中ではあるが、一つ一つ整理しながら今後準備を進めていきたいと考えている。
- ◎) この問題のことが新聞で掲載されていた。そのときのインタビューで1人でも参加して、まず開いて反応を見てみましょうっていう、気の長いと言ったら悪いけれども、その第一歩を進めたんだっていう話を新聞で見た。今8名しかいないかもしれないが、始まったばかりで8名っていうのは、これは大きな意味があるんだなと思って感心した。先生方が地元で教育をしていくっていうのは、相手が見えないから、とても悩むことだと思う。相手から文字では返ってくるが、普通だったら口で返ってくるものを受けとめなきゃいけないっていう。先生がすごく気を使うと。怒ったら駄目だとか、そういう話をされていたが、そうだなあと思って、相手の見えないものに対して、どう心を配っていくのかっていうのが、これが一番ハードルかなと自分は感じた。
- ◎) オアシス教室もそうだと思うが、そこに参加している子供たち

について、学校側から指導員の先生方への情報提供がなされているということだが、やはりそういう関わりを学校側の方が積極的にやってもらえると随分違うんじゃないかなあと思う。そこからそういう効果が波及して、不登校になっている子供たちもさらに参加してみようかなとなるような学校側の頑張りもやっぱり必要なかなあという感じがする。

◎) この辺りは、先ほども質問があったかもしれないが、学校との連携っていう意味では、学校によって差があるのかどうか、どの学校も連絡を密にとっているのかどうか伺いたい。

⇒) いろいろと忙しいのだろうとは思いますが、学校によって差がある。

◎) 今、オンラインの視察をしていただいて状況が分かったと思うが、いつも報告をしてもらっているオアシス教室の状況について、実は先日学校教育課長が行ったときに、オアシス教室の状況が最近非常にいいということだった。オアシス教室の子供たちの学びの状況等について伺いたい。

⇒) 先ほどの事務報告の中でオアシス教室の人数を報告したが、現在27名の中学生がオアシス教室に通っている。私も先週2、3回オアシス教室に行ったが、生徒の表情が非常に明るかった。それから学習支援員の方々も、生徒一人ひとりに寄り添いながら学習支援に取り組んでいた。生徒には時折笑顔もあり、生徒は違う学校から通ってそれぞれ違う制服を着ているが、昼休み時間等を使って、支援員の方と城山公園に散歩に行ったりするなど、非常に打ち解けている印象をもったところである。オアシス教室は、学校への復帰を目指した施設なので、生徒たちがいずれまた元気よく学校に通えたらと強く思っている。

◎) オンラインで今スタートして非常に効果が上がっているっていう話だが、オンラインの限界を感じることもあるか伺いたい。

⇒) やっぱり相手がどんな状況かどうか分からないこと。Meetに名前は出てくるが、向こうで何をしているか分からないという。心配もするが、それは学習コンテンツのいいものをなるべく提供して振り向いてもらうしかないかなど。それから、やり方によっては、授業コンテンツもいっぱいあるし、キュービナや新しい問題もいっぱいある。可能性はものすごくあると思う。

⇒) 4月から6月、7月途中までこの準備に関わっていく中で、全国各地でオンライン学習を実施しているいろんなところの実情を見たり、取り組みを探っていく中で、限界もあると思うが、逆にその限界というものよりもその将来性っていうか、例えばまだ

私達はできていないが、今度、市内で行われる落語の講演会を、許可を得て録画して、それをオンラインで子供達に見せたりとか、なかなか子供たちはそういう機会がないので。それから地引き網の様子を録画してきて、それをオンライン配信することで外との繋がりとか、そういったきっかけができるような、そういうこともできる可能性の方をどちらかというと大事にしていきたいなど考えている。限界もあるが、それよりもどちらかという、今後は面白いのかなと考えている。

◎) 先生方がそういうふうにとらえていただいているっていうのは非常にありがたい。ちなみに先ほど議論した電子図書、これは当然タブレット上で子供たちが借りたりすることができる。電子図書館が11月3日に稼働する。登録してパスワードとIDを取得さえすれば、今度は子供たちはその中で電子図書を借りて、それを通して読書をするすることができる。中学生が読むようなコンテンツはあるかどうか、先生方に見ていただいて、紹介するなどはできないか。

⇒) 子育て世帯にとということも考えているので、絵本とか児童書も今回少し購入する予定にしている。

◎) 今すぐじゃないにしても、またそういったいろんなコンテンツ、先生方ばかりではなくて、我々も横の繋がりの中でそういうコンテンツ、このオンラインで何か使えそうなものの紹介、こんなのは使えないかっていうところは、また先生方に情報提供していくということも大事なのかなというふうに思った。

◎) これを立ち上げなかったら、結局この子供たちはずっと不登校のままだったかもしれない。でも、この子供たちが参加して当然中学校3年生などは今後高校等に進んでいく中で、先ほど社会的自立ということを言われたが、そういった頃になった時に、オンラインで参加して、それがやっぱり自分としてはよかったなあっていうようなことに私は繋がって行って欲しいなっていうすごい期待感がある。そういうようなことに今後繋がっていけるといいなど。当然学校に復帰していくのが一番いいに決まっているが、いろいろな理由で学校に行けない子供たちも多くなっている、その一つの機会として、このオンラインでの機会っていうのは非常に大切にしていけたらいいのかなという感じがしている。

◎) アウトリーチオアシス教室は27名の子供たちがいて、また、このシステムを稼働しなければそれだけで終わっていたわけだ

が、これに 10 名近い子供たちが今関わっているということで、そういった意味ではやった価値というのは非常に大きいんだらうなと思った。せっかくなので、先ほど機械の繋がり方というところもあったが、それ以外の要望等があれば伺いたい。

- ⇒) やはり機械関係をもっと勉強しないといけないが、専門の指導員が定期的に通ってきてくれるとありがたい。2週間に1回でもいいので。
- ◎) やはり人的な手当のところ、ICTに詳しい方が来てもらえるとよいという話。その辺りはまた考えていく必要があるかもしれない。
- ◎) もうちょっと画面の大きいものを買ってはどうか。先生が教えるためには小さくないかなと思ったので。
- ◎) 支援員の先生はタブレットか前の画面か、どちらを見られているのか。
- ⇒) 両方見る。画面が2台になったので助かっている。ただ、外に出て行った時に、それこそこれからやろうとしているが、Chromebookとルーターを持って、それからそれで録画してという形になっているので、実際非常に使いにくい。私たちとしては同時配信とかまでやりたい。例えば野口遵記念館に行って配信するとなったときにフリーズしたりなど、そういったのがなくなるような機械があるとよい。
- ◎) 今日は遠足ですということで、先生たちがここじゃなくて、市内に出て行って配信をすると。
- ⇒) そういふのができるとよい。大体ひきこもっている子どもが多いので。
- ◎) そう考えるとLTEのタブレットの方が使い勝手はいいのかという話。またその辺は考えていきたい。
- ◎) タブレットで話して、笑顔とかそういうのが見えるようになってくるとすごく心が通じてくるんじゃないかなと思う。先ほど落語とかああいうのから引き出して、笑顔で、勉強は笑顔でしなくてもいいが、機械だけじゃなくて、そういうのが伝えられる、伝わってくるようなりモート、そういうのになるとすごくいいんじゃないかなっていう気がする。そこまで引き出してやってほしい。よろしく願います。
- ◎) 委員にお願いして、松田文志さんと呼んで、遠隔で東京から、無料で話をしてもらうというのはいかがか。
- ◎) できると思う。今ちょっと忙しくしており、外を走ったり、い

ろいろしているのです。その時間帯はあると思うので、提案はできると思う。

◎) 以上で、この件の協議は終わりたい。支援員の先生方に感謝申し上げます。続いて、先ほど見ていただいたオンラインによる協調学習の授業について、まず今回の事業の趣旨や仕組みについて、資料をもとに担当者から説明をしてもらいたい。

⇒) 今回「協調学習が結ぶ自治体を超えた繋がり」ということで、本市が学力向上のために取り入れている「知識構成型ジグソー法」という、子供たち同士で話し合う中で考えを深めていくという授業を見ていただいた。熊野江小学校は6年生が2名ということで、なかなか話し合う機会や様々な子供たちの考え方に触れる機会が少ないということで、今回大分の九重町と豊後高田市の学校と ZOOM で繋いで、話し合い活動を中心とした授業を行ったところである。小規模校の学校が集まっているので、途中でやはりなかなか話し合いが進まない場面があった。そしてまた初めて会う子供たちなので、今日はそれもあって、なかなか授業が進まないというところがあった。ただ、今回いろいろな活動を行って、話し合いを3段階行ったが、その最後に、2つのグループが答えを導き出して、その答えを全体の前で発表した。その考え方を聞いた熊野江小の2人は、最後に、もう一度戻って今日の課題に取り組む場面になったときには、2人とも答えを導き出すことができた。1時間、子供たち同士で解決していくという苦しい時間を過ごしながらも、最終的には2人ともすごく笑顔で、答えを導き出すことができた。自分の考えが深まって今日の授業を終えることができたと思っている。日常的に関わっている子供たち同士であれば、もっと活発に意見交流ができて、話し合いを行っていく中で考えが深まっていくのが普通なのだが、今日は初めての試みということで、こういった状況であった。また事後研究会が行われるので、そこで反省として出てくるものを生かして、2回目も今年中にまた実践する予定なので、さらに深めていけたらいいなと考えている。

◎) まずは今日の授業というよりも、このジグソー法、協調学習ということについての質問を受けたいと思うがいかがか。

◎) 始めは本当に硬くてしゃべらないなっていう感じで見受けられた。でも、先生の話では、最後は、自分たちからやれるようになっていう、わずかな時間でもそういうふうになれるっていうことや、他の県の子供たちと一緒に話をするっていうのはすごくいい

ことだなあと思う。そして先ほども言ったが、やっぱり、ただそれだけやって解決するんじゃなくて、笑顔が出てくるような授業になると、すごくやった甲斐があるんじゃないかなと思うので、そこを強調して、よろしくお願ひしたい。

◎) やはり協調学習ってというのは、場の共有というのが非常に重要なポイントになってくると思う。だから他者との共存感であったりとか、自己の存在感であったりとか、そういう部分が非常に重要になってきて、これが通常の学級の中での協調学習等であればそれはスムーズにできる部分もあると思うが、初めて会う子供たちの中でこの場を共有していくってというのはなかなか難しいのかなっていうことを今日感じた。今日は、事前にこういうような形でやるんだよってというような、子供たちのアプローチがしっかりなされた上でスタートをしたのか伺いたい。

⇒) 授業者のA先生と子供たちとで1時間ぐらい打ち合わせは行った。こういった流れで授業をするというような話もあった上で、ズーム上で、書き込む練習をしてみたり、画面を共有してみたりなど、いろいろと時間をとっていただいて、研修はした上で今日を迎えた。

⇒) 学級でも、大分県の子供たちと一緒に学習するんだという話をした。最初はやはり「え〜、慣れた人たちがいい。」という感じで、すごく怖がっていたし、授業が始まる前も固くなっていたが、今日終わったあと女子児童にどうだったかを聞いたら「またやりたい」というその言葉がすごく思っていた反応と違ったなと思った。もっと今度はしゃべれるようになりたいとか、算数を鍛えてから挑みたいというような感じで言っていた。男子児童のほうも解けたことにすっきりした感じで、今までだったら2人で解いたり、すぐ終わったりとかするのだが、長い時間をかけてでも終わったということに喜びを感じていた。2人はものすごくいい顔をして帰っていったところであった。

◎) 協調学習を通して、意欲的に学習に参加していく態度であったり、メンバー同士の交流とか、そういうようなものを鍛えていくんだってというような思いはあるのかなと思うので、非常にこういった機会は、こういう少ない人数の子供たちにとっては非常に慣れない中で緊張する部分もあるかもしれないが、そういった機会を鍛えていけば、中学校、高校には繋がっていくのかなと感じた。

◎) 子供2人だが勉強する姿がよかった。彼らも真剣で、また新しい教育の方法だなと思って見ていた。

- ◎) まず校長先生に伺いたいのが、先ほどA委員やB委員が話をされたように、小規模校ということにおいて、今回のような挑戦というのは、校長先生としてどういうふうな意義があるのか、どういうふうに考えられているのか、校長先生として今回の挑戦をどういうふうに感じられているかということ、どういう期待があるかっていうことをまず伺いたい。もう一つ担任の先生に伺いたいのは、担任の先生から見られた時に、あの2人の子供たちにとってのこの協調学習、オンラインでやるということの可能性は子供たちの成長にどう繋がるか、今もちょっと話していただいたが、担任としてどういうふうにこの今回の挑戦を受けとめているか、どういう期待があるか、それぞれの立場で話をしていただきたい。
- ⇒) 本校は少人数で、なかなか話し合いをして学習課題に取り組んだりとかいうことが少ないので、今回の学習は、最新のオンラインっていう方法を使って、知らない友達とグループになって一緒に課題解決をしていく。なかなか話し合いまでには至らなかったが、自分の考えを説明したり、相手の考えを聞いたりっていう、そういう学習を経験するっていう意味ではすごく貴重な学習の場だなあっている。社会教育課が主催するはらはらわくわくふるさと体験隊でも、今年度から参加しているが、やっぱり一番子供たちに学んで欲しいことは、集団活動の中でいろいろやりとりをしてコミュニケーションを取ったり、その中で自分の意見を言ったり聞いたりっていうことができるように、自分の意見を言うときには堂々といえるとかそういうことが大きな一つの目当てなので、そういう意味でも、今日の協調学習、いろんな学校の友達と一緒に勉強するっていう意味はすごい大きな意味があるなって思っている。それを重ねていって、緊張せずに自分から、じゃあ僕から説明するねとか、誰々さんはどうですかとか言えるようになるといいなあと、その第一歩じゃないかなと思って今日見ていた。
- ⇒) 私はこの学習を通して人との出会いをして欲しいなと思っている。普段は知っている人の中で、心を許している友達との中で生活しているが、今日初めて会う人と話す中で、こういう子もいるんだ、こういう考えもあるんだとか、その子の持っている性格とか、いろんなところを学べると思うので。あともう一つ習得して欲しいと思うのがやっぱり友達と解決する良さっていうことで、今回のことはなかなか経験できないことだったのかなと思う。
- ◎) なかなか小規模校においては対話的に学んだりとか、協働的に学んだりとか、解を求めていたりっていう状況を作るのが非常に難

しいと。そういった中では、この可能性は非常に今回のチャレンジにあるんじゃないかっていうような話だったのかなと思う。

- ⇒) 補足だが、最後帰るときに子供たちにちょっと伝えたのがやっぱり小規模校の子供たちの集まりなので、話すことが苦手な子供たちが多いので、次の12月の時には君たちが話し合いをどんどん引っ張ってまとめていけるような力をこれから1ヶ月つけて来てねっていう話をしたところである。B先生はかなり子供たちを鍛えて伸ばしてくれる先生なので、これからまた1、2ヶ月の間に子供たちが成長した姿を、次の協調学習で見せてもらえるのではないかなと期待しているところである。
- ◎) 子供たちが今日みたいに知らない子供たちの中でも意見が言えるっていうのは、やっぱりそれなりの考えのその根拠となっていくような知識とか技能がしっかり定着をしているっていうことが、やっぱり大切かなと思うので、今回はこういうテーマでやりますって言ったときに、それに関わるような予習的なもの、何かそういうようなものも事前に子供たちに伝えていくことによって、その当日、準備をした中で参加していくと、さらにこう自信を持った発言には繋がっていくのかなあという感じがする。
- ◎) いろいろ手探りでやっていただいているので、今日の意見も参考にしながらやっていきたい。先ほど校長先生からの話で、今日のチャレンジと違ってもう一つ、熊野江小学校は今年から「はらはらわくわく」の教育プログラム、社会教育のプログラムに学校教育のプログラムをのっけるという、昨年浦城小がやったものと同じような形で乗っかっているが、そういったこととも繋がって、子供たちにとっては、多様な人たちと直接触れ合ったり、または全く生活の環境も違うような、今日のような子供たちと触れ合ったりということ、これは効果があるということは、学校としてやっぱり何となく感じている。そう考えると、やっぱり他の学校もどうしていくか。同じように小規模校がたくさんあるので、そういったところのあり方も含めて考えていかないといけないんだろうと思う。先日の総合教育会議で、今後の学校教育のあり方について、来年度、教育委員会が責任をもって検討するということが決まったので、今後こういったことについては議論を深めていかないといけないと思う。多分、校長先生も、今回の2人以外にあと2人、先ほど運動場で4人で仲良く遊んでいたが、それぞれの保護者のいろんな思いも受けていると思うので、そういったことについても、我々も耳を傾けていかないといけないかなというふうに思っているところである。

◎ その他

◆ 11月定例教育委員会の日程について（総務課）

- 11月定例教育委員会については、11月22日（水）の13時30分から、災害対策本部室で開催する。

◎ 閉会

澤野教育長が閉会を宣し、終了した。（16:05）